

創刊に寄せて

代表 晝間 初枝

新型コロナウイルス感染症は私たちの生活に大きな変化をもたらし、未知のウィルスへの警戒は未だ先が見えません。とりわけ対面でのコミュニケーションや密を避けることが困難な自然観察会は協議会活動の柱でありながら、中止せざるを得ない状況が続いております。しかし、今はだれもが安心して過ごせる環境を取り戻すことが最優先ですから、その条件下でできる最善の方法を現在模索しております。

一方、コロナ禍は皮肉にもIT化の拡大、働き方改革、非接触型生活等々、様々な変化をもたらしました。日常生活は一変いたしました。新たな楽しみを見つけ、人とのつながりや絆は大切にしていきたいと思えます。

このような中、ここに自然観察ちば「メールマガジン」を創刊、よりタイムリーな情報をお伝えすることができるようになりました。外出自粛の生活はまだまだ続きますが、お互いの知り得た自然情報、体験、とっておきの話などメールマガジンを通して伝え合うことで、一人では知りえない多様な情報を知ることができます。気軽に言葉に表して会員間の交流を深めていくことができればと思います。会報「しおかぜ」同様よろしくお願い致します。



あけぼの山公園の散策

私の家から歩いて15分ほど行くと柏市のあけぼの山公園があります。自粛要請の時には公園は閉鎖されていましたが、道路に隣接の桜山やチューリップ畑は入れたので、人のいない状態でサクラやチューリップの満開を味わいました。この公園は、細い道の縁には自然種の野草や樹木の花も一杯に見られる場所で、秋にはこの場所が観察会のフィールドになっているので、春先から散歩を兼ねてここを歩いています。7月になってから園内でヤマユリの花が咲き始めました。野生種のユリは見応えがあります。ヤマユリにちなんで万葉集の歌の中で、筑波山と百合がでてくる、私が一番好きな歌を思い出しました。



「筑波嶺のさ百合の花の夜床にも愛しけ妹そ昼も愛しけ」

(語訳) 筑波山の山麓のきよらかな さ百合のように愛らしく純情な妻は、
夜の床でいとしいのは勿論だが、昼は昼でまたいとしいものだ。

ここで詠まれたのは「さ百合(サユリ)」とありますが、ユリの自生地については、東は「ヤマユリ」西は「ササユリ」とはっきり分かれており、ササユリと迷うかも知れませんが、関東地方一円に自生する「ヤマユリ」を指すと思われます。ユリの中でも、ヤマユリは花の大きさや、色の鮮やかさ、むせかえるほどの強い香りも含め、豪華、華麗な姿はユリの王様と言えると思います。春から色々な観察会が中止になり、外出が制限され、まだ遠出はしたくない気分ですが、近くでヤマユリが見られ、十分に里山の自然を感じられ、有難かったです。(小島紀彦 我孫子市)

子どもたちのために。七タプロジェクトから……

もうすぐ七夕。私たち松戸のボランティアの多くは里山を中心に活動しているが、竹林も多く、間伐に追われる。問題は伐った竹の処理。都市部では燃やすことは禁止されているし、実際に燃やせば近隣から煙ですぐクレームが来る。森の中に積んでおいて腐るのを待つしかないが、竹はなかなか腐ってくれない。狭く小さい森や林にこうしたゴミの山が増えるばかり。ボランティアが頭を悩ませている一方、竹が欲しくて、高いお金を出して買っているところがある。だったらこれを結び付けばいいじゃないか……私の思い付きというかアイデアであった。この提案はすぐ採用された。それが七タプロジェクトである。

市内の学童クラブや児童館から希望を募り、ボランティアが森の整備を兼ねて竹を伐り出す。それを市役所のトラックで配ってもらい、子どもたちが七夕飾りに使うというもの。今年で8年目になるが、竹の伐り出しには多くのボランティアが集まるし、子どもたちからは飾った竹の写真とともにお礼の手紙も届く。小さな取り組みかもしれないが、森のゴミを子どもたちの喜びに替えるボランティアと行政が力を合わせた取り組みである。

七タプロジェクトはそれだけでは終わらなかった。話が発展して、夏休みに竹細イベントをやってほしいということになってきた。ボランティアが児童館などに出張して、子どもたちの手を取ってノコギリの使い方を教え、竹ポックリや水鉄砲を作る。子どもたちは自分で作ったおもちゃで、夏休みを思いきり楽しむのである。(高木喜久雄 松戸市)



オオキンケイギクとチガヤ

ローソン君津市役所前店前の県道158号君津青堀線には毎年チガヤが生え揃う中央分離帯があります。どこにでも見られるありふれた景色です。数年前からオオキンケイギクがちらほらとチガヤの中に混ざるようになってきて、私の街にも外来種が侵入し始めたことと認識しました。今年の5月頃だったと思いますが衝撃を受けました。この中央分離帯が黄色のフェンスを張ったかのように一面にオオキンケイギクが繁茂し、チガヤに取って代わったのです。ここで食い止めないと他の中央分離帯や道路脇も、みなオオキンケイギクに成って行くような気がします。

何より怖いのはこのオオキンケイギクが特定外来生物だということです。日本の生態系に重大な影響を及ぼすことが懸念されています。花のきれいさからか個人宅の庭に生えているのを見かけることがあります。わざわざ植えたのでしょうか。まだまだ、特定外来生物であることが伝わっていない状況のようです。

そんな中、道路に使用する縁石に防草製品が出てきました。この製品は植物が自ら成長を止める目地構造を備えているとカタログに記載がありました。チガヤのみならず、オオキンケイギクの繁殖が制御できれば街は雑草の無いすっきりとした街になります。この製品がいつ頃採用されるかは分かりませんがその効果に期待しつつ見守りたいと思います。(秋元良夫 君津市)



ときがね湖の動植物

新型コロナウイルス感染拡大で自粛生活、観察会もなくなったし、さてステイホームでなにをしよう？読み終えていない本を読む、料理を頑張る・・・なんて考えていたが、とりあえず自宅近くの谷津田やときがね湖を歩いた。歩くと毎回色々な虫に出会えて面白くなり、雨天の日以外はカメラを持ってご近所の自然観察をした。去年9月千葉を襲った台風15号と10月の大雨で自宅近くも倒木や土砂崩れなど被害が多かった。今年も九州で甚大な水害の被害が起きている。自然の前では人間の文明も成す術もない。でも自然の復活力はすごい。4月～5月は倒れたヤマザクラやヤマボウシが見事に花をつけているのをあちこちで見た。土と一緒に斜面から落ちたマユミの木は、その場所で元気に育っている。ときがね湖では樹木が倒れたおかげで陽が当たるようになり、眠っていた種が生き返ったのか、去年はなかったイチヤクソウやカワラナデシコ、ウツボクサの花を発見した。最近では、草間から白い花をのぞかせたヤマユリの香りを楽しみ、コチドリやハシロ、クモ、チョウの種類など、たくさんの生き物たちの観察を楽しんでいる。(山下美佐子 東金市)



北の国だより

北海道の佐野です。

梅雨に入り、蒸し暑い日々が続いていると思いますが、北海道は、まだまだ春の涼しさですね。とはいえ、生き物たちは悠長に構えている暇もなく、着々と夏に向けて準備を進めています。

あなたの性格はトドマツタイプ？ハイイヌガヤタイプ？

同じくらいの高さの木が2本並んでいます。

左の木はトドマツで右の木はハイイヌガヤなのですが、性格が正反対なんです(´▽`)

トドマツは、高さ30mにもなる高木で、薄暗い森の中で、毎年、少しずつ成長しています。そして、雪が積もっても、何とか踏ん張って、我慢強くじっと耐えています(° o °)

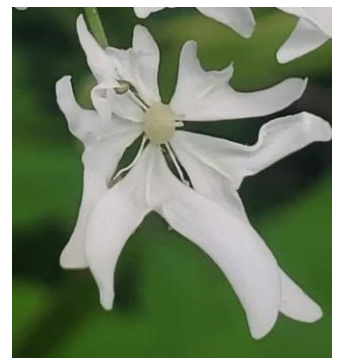
ハイイヌガヤは、これ以上背が高くなりません。斜めになっているのには理由があり、雪が降ると無理せず、雪の重みをしなやかに受け止めて、そのまま、暖かい雪の中で過ごします(*´▽`*)



札幌で一番の人気レストラン開店

通勤途中の道ばたで、オオハナウドのレストランが開店していました。私のようにお腹をすかせた虫たちが集まってきます(*´▽`*)

近づいてよく見てみると、レストランの入口に立つ集客係の花が、両手を広げて、「いらっしゃい、いらっしゃい、おいしいよー」と、熱心に宣伝していました(^o^)



ナラの仲良し親子

葉っぱの家族が一家団らんを楽しんでいます。

子どもの葉っぱが、「遊ぼうよ、遊ぼうよ」と、お父さん、お母さんにせがんでいます。

両親に温かく見守られながら、すくすく育っていくんでしょうね(*´▽`*)

子どもの葉っぱはコナラ、大人の葉っぱはミズナラです。札幌市はコナラの分布の北限地帯であり、場所によっては、コナラとミズナラが仲良く並んで立っています☺🌿☺



ゴミも積もれば山となる

〇〇富士という愛称がついてそんな美しい形の山です
ね(^ - ^)

札幌市のモエレ沼公園内にあるモエレ山(高さ52m)です。この山は、不燃ゴミと公共残土を積み上げて造成されました。

日本のごみ排出量は年間約60万トンで、東京ドーム115杯分だそうです。毎年、モエレ山がいくつも造られている計算になりますね。私自身、生活を今一度見直したいと思います。



親子で仲良くラジオ体操

札幌市近郊の海岸です。青空の下、お母さんと子どもが向かい合って元気よくラジオ体操をしていました(^ _ ^) /

「おいっちにー！さんしー！」

手先がピンと伸びて美しいですね(*^-^*)

お母さんはコウボウムギ、子どもはコウボウシバです(^ - ^)



宝箱の中には何がある？

「ウンショッ！ヨイショ！」

固く塞がっているオオウバユリのつぼみを何とかしてこじ開けようといろんな虫たちが挑戦していました(*^-^*)

閉じている箱の中には宝物が隠されていると思うのは人間も虫も同じなんですね。お母さんが棚の奥に隠しているのは高級なお菓子と決まっていますからね(※極めて個人的な偏見です)。



佐野さんの Facebook には、北海道の自然情報が満載です。[佐野由輝](#)で検索してください。

樹木スケッチ ～描いて発見する自然のすばらしさ～

絵を描き出すと時間の流れが変わります。写真だと30分立ち止まって撮影すると、すごく長い時間を使ったと思います。でも絵を描き出すと1時間から時には数時間その植物と向き合います。採取してきた実物を見たり（採取できないこともあります）、その場で描いたスケッチを見たり、写真を見たり、図鑑を見たり・・・時間をかけた分、その植物に沢山の気づきがあり、愛着が湧き、またフィールドで出会うとじっくり観察するようになります。（中田真也子）



<ヤマグワ>

ヤマグワの真っ黒く熟した実は、甘くておいしいですね。でも赤い実は綺麗なのですが硬くて酸っぱい。しっかり選んで食べないと、痛い目に合います。

同じ枝でも一度に実が熟さないのは、色んな鳥や動物に少しずつ時間を変えて食べてもらい、糞と一緒に種を色んな場所に撒いて欲しいからなのではないでしょうか。多田多恵子先生の講演会でお聞きした「ちょっとだけよの法則」を思い出しました。

植物の知恵(?)ってすごい、と感動します。

2020年6月24日千葉市花見川

<アジサイ>

今年は本当に長梅雨で、あちこちで咲いているアジサイの花が薄暗い曇り空や雨に映えました。

アジサイの絵を描きながら、「こんな季節に咲くから、アジサイはこんなに艶やかな色合いで他の生き物の目を引き付けるんだ・・・。」と一人納得してしまいました。

絵にある水色の花は咲き始め、紫色の花は満開の花。同じ樹でも全く色が異なります。中心の両性花も小さいのですが、真っ青な花びらに真っ黄色の雄蕊とコントラストが鮮やかです。

見れば見るほど美しいこの花のほとんどが、日本の在来種のカクアジサイとヤマアジサイから生み出されたと知るとまた感動します。

2020年6月28日幕張海浜公園

